

## 令和5年12月22日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

それではただ今から、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい、よろしくお願いいたします。今日は、発表事項は3点です。  
まず、静岡マラソン2024ですけれども、エントリー結果の報告とボランティアの募集についてです。エントリーの結果については、12月15日にエントリーを締め切りました。フルマラソンは、最終的には1万2,118人となりました。1万2,000が定員ですので、それをやや上回っております。それから、「ファンラン」についても、1,357人となっております。このエントリーですけれども、47都道府県全てからエントリーをいただいております。そして、海外は17カ国、そして658人のエントリーとなっております。非常に広くから来ていただけるということで、非常に喜ばしく、感謝申し上げているところです。そして、ボランティアの募集ですが、静岡マラソンの運営は、多くのボランティアの協力を得て開催されています。ボランティアの皆様のおもてなし、これが静岡マラソンの特徴の一つとなっております。参加された方からも好評をいただいております。今年も3,000人を超えるボランティアの皆様にご協力をいただきたいと思います。そのうち、走路員や救護員など、専門的な知識が必要な方を除く、約2,000人のボランティアを、12月28日の木曜日まで募集しております。ボランティアの皆様には、前日のマラソンフェスタ会場での会場設営サポート、参加賞の引換、そして、当日のスタートエリアで参加者の皆様の手荷物の預かり等々、いろいろなことがありますので、ぜひ参加いただければと思います。一緒に素晴らしいマラソンを作っていきましょうということで、ぜひ応募いただければと思います。特にスタートエリア、そして、フィニッシュエリアの参加者の皆様のおもてなしをいただくボランティアが今のところ不足しておりますので、ぜひ応募をお願いしたいと思います。

それから2つ目ですが、これは「JR清水駅東口のまちづくりのための土地利用条件整理の中間報告」ということです。スタジアムのための、ということもありますけれども、あまりスタジアムと限定しないで、「まちづくりのための土地利用条件整理」という形で発表いたします。まず「要旨」ですけれども、静岡市とENEOS株式会社、令和3年7月14日に協定を結んでいます。地域づくりの推進、正確に言うと「静岡市清水区袖師地区を中心とした次世代型エネルギー

の推進と地域づくりに関わる基本合意書」というものを結んでおります。この合意書に基づいて、ENEOSが所有をしている清水駅の東口の場所に、次世代のエネルギー供給プラットフォームを構築するとともに、「まち」と「みなと」が一体となった、魅力的かつ持続可能な地域づくりを進める、ということになっております。これに基づいて、ENEOSと静岡市との間でいろいろ話をしてまいりまして、まちづくりを推進するために、いろいろな条件整理をしたという状況にあります。今回の公表内容ですけれど、中間報告として、JR清水駅東口の調査の結果です。後ほど、ご説明いたします。

そして、中間と言っていますのは、最終報告を来年の3月に出したいと思っています。その際には、いろいろな方からのご意見をいただいた上で、清水駅東口の条件をしっかりと決めるということと、それから現在あるIAIスタジアムですね、これの改修について、だいたい、いくらくらいかかるのかという辺りの目処をつけたいと思っています。今後の進め方ですけれども、こういう利用条件を示しましたので、いろいろな方々、土地利用に関心のある方、投資を試みたいと思われる方に検討していただいて、そのアイデアを市に寄せていただければと思っています。

そして、2枚目ですけど、県との関係もあって、県は同じ様にENEOSと令和2年7月、市よりも1年前になりますけれども、基本合意書を結んで、やはり同様の内容で、エネルギー関係、次世代エネルギーとまちづくりをやりましょうということになっております。したがって、ここの場所については、静岡市と県、そして、ENEOSの三者で連携して、そして、外部からの投資を促進して、魅力的な場所づくり、地域づくりを推進したいと思っています。

資料は、こういうちょっと大きなものがあると思いますけれども、ざっとご説明をいたします。まず現況はどうなっているのかということを整理しています。東口なんですけれども、ENEOSが「ここは使ってもいいよ」ということで提示していただいている場所になります。今の、その1ページ目の左下ですけれども、「土地利用に関する条件」ということで、今は「港湾法」であるとか、「都市計画法」でいろいろな制限がかかっている、例えば、スタジアムはできないという状態になっています。その上でこれからどうするか、ということになるわけですけれども、右上に「上位・関連計画による検討地の位置付け」とありますけれども、静岡市の4次総という、第4次総合計画、そして都市計画のマスタープラン、いろいろなもので位置付けられています。わかりやすいのは、「みなとづくり」の「公民連携協議会」がありますが、そこが「こういう使い方はどうでしょう」ということで、スポーツ施設と商業施設も提案して、これはこの案を、この地区に全戸配布して、意見をいただいて、「だいたいこんな方向でいいんじゃないか」というのが、大半だったと聞いております。

そして、現況の交通量はこうなっています、ということです。

続きまして、裏面ですけれども、現況編の②ということで、津波の想定がどうなっているのか、地盤高がどのくらいなのか、それから土壌汚染の状況がどうか、それからいろいろなものが、既存施設が、今、タンクがありますけれども、タンクがどういうふうになっているのか。その地下にどんなものがあるのか、その辺りについても入れております。

そして、地質ですね。やはり地質は、ここに建物を建てる時には非常に重要な情報になりますので、これを入れております。

続いてこれからということですが、3/4(ページ)ですね。2枚目ですが、土地利用に関する法令については、先程「港湾法」と「都市計画法」の話をしました。これについては、詳細は省略しますが、これも変える予定です。港湾については、県の所管になりますけれども、県からもご了解をいただいて、こうやってスタジアム、あるいはオフィス、ホテル、こういったものが建てられるような条件に変えていく予定です。それから、今は工業専用区域のところですが、これについても、商業地域あるいは準工業地域に変えていって、スタジアム、オフィスいろいろなものが建てられるということに変えていく予定にしております。港湾審議会と都市計画審議会の議論を経る必要がありますけれども、方向性としてはこんなふうになります。

それから、もう1つ、石油コンビナート等災害防止法というのと、高圧ガス保安法、ここにLNGの基地がありますので、それとの位置関係で「保安距離はこのくらい、300メートル取ってください」となると、この辺りについては、「建物は制限が出ますよ」とか、あるいは「土地利用には制限が出ます」というのをに入れております。それから防災についてですけれども、ここは津波のエリアではありませんけれども、嵩上げ等をして、防災拠点として使えるというふうに見ております。したがって、「防災拠点としてはこんな使い方です」というのを示しております。

それから土壌汚染対策ですけれども、ここはずっと石油の基地として使われていましたので、土壌は汚染されている可能性が高いと思われます。それに対してどういう対策を採るかということですが、右下のところに3つありますけれども、一番有力なのは真ん中の盛り土ですね。嵩上げをする案だと思っております。嵩上げをすることによって、地盤が高くなりますから、その分だけ津波に対して安全になりますので、そのためにもこういう方法かなと思っております。これをやれば、立地上の制約はあまり受けなくなると思います。

それから、次のページは、騒音対策はどうするのかということ、それから土地の開発手法ですけれども、開発手法については、土地区画整理事業と、それから一般の開発行為と、2つありますので、それぞれでやった場合にはどのような

やり方、制限がかかるかとか、そんなことを書いております。

配置のイメージを右上に書いていますけれども、区画が2つあって、左の区画の所は商業ホテル、スタジアム等で利用可能な場所になります。その右側、やはり、この保安距離がLNGからの保安距離がかかりますから、ここはあまり集客を伴わない施設ということになると思います。こういった形で利用可能ということになります。そして、想定される路線価ですけれども、今は工業地域ですので、非常に安い値段になっておりますけれども、これが開発後は倍ぐらいの値段、1平方メートルあたり、今、5万4,000円くらいですけれども、おそらくその倍になるのではないかと、というのは予想もしております。

これが調査の内容です。この条件、やはりここで投資をしていただく、例えば、スタジアム、あるいはここでホテルも一緒にスタジアムとホテルを建てるというような話があるとすれば、やはりこういう条件を提示しておかないと、検討しようがありませんので、今日、こうやって条件を提示して、「どうぞご自由に絵を描いてみてください」、あるいは「投資計画を書いてみてください」という形で示しております。

3番目ですけれども、「今年を振り返って」ということです。お手元に資料がありますけれども、ざっと振り返ってみたいと思います。今年と言っても、私、4月に市長になりましたので、4月以降ということになりますが、4月に市長になったというのは、これは当然でありますけれど、私にとっては、たいへん大きな出来事でした。就任後に何をやってきたかということですが、最初に、最初にというのは就任の次の日から1週間、市の各部局から話を聞いて、課題の整理の説明を受けて、そして、「これ、こういう方向でやりましょう」という方向付け、53項目の方向付けをして事務をやりましょう、ということにいたしました。年度初めでしたので、ゆっくりやっていると事務が進んでしまいますので、年度の初め、令和5年度の初めの14日から21日までに、「今年はいきましょう。私の市政の運営の方針はこういうことですよ」ということを、職員の皆さんにしっかり聞いていただいて、その上で事務を進めることにいたしました。

それから5月ですけれども、PFIで実施することが決まっていた「海洋・地球総合ミュージアム」と「大浜公園」、そして、PFIで実施することを検討している「アリーナ」、この3つの事業について、内容を見直すということを行いました。そして、その後「市民文化会館」については、PFIからの変更を決めました。「海洋・地球総合ミュージアム」と「大浜公園」については、契約段階でしたので、特にミュージアムについては契約終わってしまいましたので、PFIの変更はしないで、内容をより良いものにしようということで、方針転換を行いました。

それから次は、「危機管理体制の強化」です。6月2日から3日にかけて、台風2号への対応がありましたけれども、ここで危機管理の初動の3原則「初動全力」「最悪の事態の想定」「平時組織の有事組織化」を徹底して、対応いたしました。そして、8月になります。「災害対応力強化実施計画」を作るとか、「総合防災訓練」などを経て、市の職員の災害への意識や対応力は確実に高まっていると感じています。最初来た時はかなり心配していましたが、今はほとんど何も言うことなく、危機管理監以下、きっちりやっただいていると思っております。

それから6月ですけれども、いわゆる「市政変革研究会」というのを発足いたしました。10の分科会を置いて、特に若手中堅の職員の皆さんに、すいません、失礼いたしました。若手中堅職員の皆さんに縦割りではなくて、チームを作って、横断的なチームですね。これを作って検討してもらっています。

子育て・教育で言うと17の課が一緒になってやっているということですから、静岡市は縦割りが徹底した組織ですけど、横張りのチーム作り、チームを作って進めております。

それから6月、同じく職員の率直なアイデアを募って業務改善に繋ぐシステム作りを始めました。職員提案箱、11月30日までに1,900件を超える提案が出ていますので、これに基づいて、できるところから一つずつ変えているということです。

それから、次のページですけれども、リニアですね。これについては、7月から12月に協議会を4回開催して、盛り土の問題、発生土の置き場の問題、それから自然環境への影響の問題、このあたりについて議論しているところです。

そして、子育て・教育については、大長副市長をトップとして、子育て教育統括監という名のもとに、局横断的な研究会を設けて、今、やっております。相当いろいろな提案が出てきていますので、来年度の予算の中で、きっちり対応していきたいと思っておりますけれども、まず、できるところからということで、9月の補正予算で、特別教室ですね。小中学校の特別教室にエアコンを設置することを決定いたしました。60億円くらい、これからかかることとなりますけれども、命に関わる問題ということで、急遽、いわゆる4次総には計上されていない事業でしたけれども、エアコンの設置を決めました。

この他に経済産業の問題、まちづくり、いろいろなことを今、やり始めているところで、今の実感としては、かなり進んできたなと言いますか、形ができてきたな、来年度の予算に向けて、きっちりとした形ができてきているなと思っております。

それから、今までは市政、市の行政の問題でしたけれども、社会全体でいうと感染症ですね。コロナが5類に移行して、いろいろなイベントが実施されること

になりました。7月の「安倍川の花火大会」、8月の「清水のみなと祭り」、そして11月の「大道芸ワールドカップ」ですね、天候にも恵まれて、たいへん多くの方に来ていただき、これもまさにボランティアの力で支えられている事業ですけれども、非常に成功であった、また皆さんに喜んでいただいたのではないかなと思います。

それから5月に「ベルテックス静岡」がB2に昇格したという嬉しいニュースがありました。8月には「静岡ジェード」がTリーグに初参戦をて、11月には「ハヤテ球団」、これはNPB、日本野球機構のファーム・リーグへの参加が正式に決定された。66年ぶりに新しい球団ができたということで、非常に嬉しいニュースがありました。その他にも、「シャンソンVマジック」「静岡ブルーレヴス」「東レアローズ」等、市民の皆さんが身近なところで、本当に高いレベルの、トップレベルのスポーツを観戦することができ、そして、この方々が市民に対して、いろいろな教室を開いてくださったりしているということで、大変ありがたいことになりました。

日本全体としては大谷さんですけれども、WBCでの優勝だとか、そういうこともありましたけれども、スポーツで非常に盛り上がった1年ではなかったかなと思います。残念なのは清水エスパルスですけれども、惜しくも最後の最後に昇格できなかったということで、来年は、ぜひJ1昇格を期待したいと思っております。

それから、12月ですけれど、大河ドラマの「どうする家康」の最終回に合わせて、パブリックビューイングとトークショーを実施いたしましたけれども、これもたいへん好評をいただきました。まだ続いておりますので、大河ドラマ館であるとか、そういうところはまだ開いておりますので、1月28日まで開館中ですので、このお正月も来ていただけたらと思います。

総括すると、社会の大きな力と世界の大きな知を活用した「共創」ですね。共に創っていくという市政運営方針を掲げて、皆さんと一緒に新しい社会の形を創り始めた。そういう1年になったと思います。発表事項は以上です。

#### ◆司会

それでは、今日の幹事社質問も今年の振り返りに関するご質問ということで聞いておりますので、先に幹事社質問をお願いしたいと思います。  
読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

幹事社の読売新聞です。今、今年一年振り返っていただきましたけれども、本日、2023年最後の定例記者会見ということで、難波市長にとっての今年一年を漢字

一文字で振り返っていただき、その理由を併せて教えてください。

◆市長

はい、ありがとうございます。用意してまいりましたので、これです。

創る「創」ですね。共創の共に創るの「創」ですね。「創る」というふうにいたしました。なぜこれにしたかということですが、まさに「共創」、共に創るの「共創」もそうですけれども、4月に市長に就任して、新しい市政、市の行政の姿をつくるということを始めました。市政というのは行政経営、企業経営があるように行政経営があるわけですが、結果が出せるチームづくりというところを、チームをつくるということもやってまいりました。そして、先ほど危機管理の話をしていただきましたけれど、危機管理体制についても、新しい危機管理体制、意識を変えて「初動全力」であるとか、「最悪の事態の想定」であるとか、そういう意識を変えて、新しい危機管理体制というものをつくってきたと思っております。

そして、全体的にも新しい組織文化をつくるということで、基本は社会に大きな力があって、行政はそれを下支えして伴走するんだ、市が何か自分達だけで勝手にやるのではなくて、社会全体の力で問題解決をしたり、明るい未来づくりをしていくんだ、そういう意識付けをしていた。そういう組織文化をつくるということを始めました。そして、社会全体に対しても「市役所が変わりましたよ」と、そういう「社会の皆さんと一緒に、問題解決や、新しい明るい未来をつくっていきましょう」と呼びかけております。

先ほどのサッカースタジアムもそうですけれども、自分達で何かやろうというのではなくて、条件を示して「どうぞ絵を描いてください」「投資計画をつくってください」というような形ですね。あるいは、いろいろな形で社会全体の力を下支えするという姿勢を、今、徹底しようとしているところです。このように、新しい姿をずっとというよりも、4月に市長に就任して、新しい市政の姿をつくるということを始め、そして、今も作り続けているという状況です。来年も同じように新しい姿をつくっていくということになりますけれども、だいが8ヶ月以上になりますので、市政の姿も変わってきて、この「創」と「つくる」という面では、市政自身については変わってきているかなと思っております。そして、共同ですから共に創るということですから、社会の皆様と、これからますます連携して、良い社会づくりに一緒に取り組めたらと思っております。そういう面で「創」ということでございます。

◆司会

それではここまでの発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと

思います。はい、いかがでしょうか。先に読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

読売新聞社です。静岡マラソンについてお伺いします。11月22日の市長会見で、難波さんは「おもてなし・しぞーか」について説明されました。それもあって、定員が埋まったのかもしれませんが、「おもてなし・しぞーか」っていうのは、関門通過できなかったランナーさんを食事等でもてなすってことなんですけども、そういう人達が本当に望んでるのは、そういうサービスではなくて、制限時間を延ばすことではないかと思います。今回は準備期間が短かったのも、難しかったかもしれませんが、次回大会以降に、その5時間半という制限時間を延長するお考えを、検討をされるお考えはないのかどうか、お聞かせください。

#### ◆市長

はい。それについては、5時間半というのは、ある種、日本で一番厳しい条件だろうと思っています。先日台湾マラソンに行きましたけど、台湾マラソンも、実は5時間半が制限時間でした。やはり、台湾の、ごめんなさい、台北マラソンですね。台北マラソンは、市内の非常に交通の多いところを走りますので、5時間半というのは、やむを得ないかなと思いますけれども、静岡市の場合は、もうちょっと余裕がある場所を走りますので、本当はもうちょっと長くしたいと、私自身はそう思っていますが、ただ一方でいろいろな声があって、やはり制限時間があることによって、交通制限されるので迷惑だという声も実際にありますので、そういった、私が一方的に長くしたいということじゃなくて、社会の声をいろいろとお聞きして、そして、交通整理の問題ありますので、県警ともご相談をして、どういう形にしていくかということは考えていきたいと思っています。6時間に伸ばしたらいいじゃないかと言って、6時間に簡単に伸ばせるほど簡単ではないと思っています。

したがって、来年は伸ばす方向では考えたいと思いますけれども、そのためにはしっかりした、来年というのはこの3月ではなくて、次の大会の時にはできたら伸ばしたいなと思っていますけれども、なかなかそうもいかないかもしれません。はい、以上です。

#### ◆読売新聞

より交通事情の厳しいと思われる大阪や東京も7時間。さらに北海道も5時間から6時間に延ばしております。静岡でできないわけではないし、実際に私が聞く限りでは、延ばしてほしいというランナーからの要望はかなり多くて、私の知人



も先日、7時間の「しまだ大井川」に出たけれども、静岡、短いので断念したと申しておりました。ぜひ、そういった方々の声も参考にしながら、検討していただきたいと思います。

◆市長

はい。伸ばしたいのはやまやまなんです。いっぱい声を聞いていますので、私自身も伸ばしたいと思っていますが、ことはそんなに簡単ではないということですから。頑張ります。はい。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSテレビと申します。JR清水駅東口の件についてお伺いしたいです。残念ながら今年、清水エスパルスがJ1昇格を果たせなかったですけども、それがスタジアム構想に何か響いてたり、そういったことが、もしあれば教えていただきたいです。

◆市長

はい、何も影響はありません。はい。来年ぜひ昇格していただきたいと思います。

◆SBS

はい、ありがとうございます。

◆司会

はい、その他、日本経済新聞さん、お願いいたします。

◆日本経済新聞

日経新聞です。スタジアムの件で、今年の3月に最終報告を土地についても行うとのことで、来年度にかけてアイデアが提案されることを期待しています、というふうなことが、この資料には書いてありますが、来年度、例えば、デザインのコンペであったりとか、そのようなものを市として開催したり、したいとか、そういう具体的な、もう少し予定っていうのはあるんでしょうか。

◆市長

はい。デザインのコンペよりも、ここの一番の課題は採算性ですね。そして、

土地がかなり広いので、自由度が非常にあるので、どういう提案をされるのか、スタジアムシティ、あるいはスタジアムパークシティのような形で、そのスタジアムもあるのだけれど、そこに公園もあり、そして、ホテルもありという、あるいは商業施設もありということも書けるわけで、典型的な長崎のスタジアムシティですけれども、ああいう形も1つの形ですし、あるいはもうスタジアムに特化をするということですね。

ただし、多目的スタジアムにして、サッカーだけではなくて、いろいろなことができるスタジアム構想というのもありますから、おそらくいろいろな考え方が出てくると思います。それを基に、当然、それには採算が伴いますから、そうすると、だいたいこのくらいの投資計画で採算がどうで、その時に市はどのくらい出すのか出さないのか、そういう話も出てきますから、まずはそちらが先だと思います。絵のコンペというのはもっと先じゃないかなと。逆に言うと、だいたいこれで何者か公募すると、何者か応募してきてくれそうだなというような目処をつけるというのが先で、それからコンペということになると思います。

#### ◆日経新聞

では、公募を呼び掛けるための、いわゆるその絵を事業者に描いてもらうものを、例えば、何月に向けて公募しますとか、いわゆる活用手法を公募するとか、そのようなことを、いわゆる公で募集するみたいなことはあるんですかね。

#### ◆市長

これで事実上募集しているような形ですよ。これでお示しをしていますから、「どうぞ描いてください」ということですね。それで、おそらくいろいろな案を描いてくださって、企画局の企画課に来ると想定していますので、それで一つひとつ詰めていって、あるいは今の広域土地利用計画だとかあります。それから、手法ですよ。開発行為でやるのか、再開発であるのかとか、いろいろなことありますから、そういうことを議論しながら、ちょっとずつ、少しずつ事業手法を詰めていくという段階だと思います、ことになると思います。

#### ◆日経新聞

わかりました。ありがとうございます。

#### ◆司会

はい、その他、朝日新聞さんお願いいたします。

◆朝日新聞

すいません。朝日新聞です。同じJR清水駅の関係なんですけど、まず、これは今日のこの変更、いろんな法令の変更という方針は、要するにスタジアムを清水駅の前に基本的には造るという方針を一応打ち出したということによろしいんでしょうか。

◆市長

そうですね。そういう方針ですね。誰が作るかは別ですよ。立地ができるというのをお示ししたということになります。

◆朝日新聞

もうひとつは、何て言うのかな、時間的なものなんですけど、あんまりダラダラしてたらって話、以前、別のアリーナの問題でおっしゃってたと思うんですが、これもあんまりダラダラしててもしょうがないのかな、というふうに思うので、計画上というか、今のお考えの中では、どれくらいまでに、そういうひとつの大きなまちをつくりたいとお考えなんですか。

◆市長

これは、時間はまだかかると思います。もうひとつ大事な要素として、今のスタジアム、あれをどうするかという判断を3月までにしないといけませんので、そこでするかどうかは別にして、3月までに今のスタジアムの改修費がいくらくらいになるのかというのが出てきますから、それを踏まえて、まず市として、どちらを選ぶのかというのを決めないといけません。スタジアムの改修を選ぶのか、新スタジアムにするのかというのを選ばないといけません。その後、仮にですけど、清水駅前のスタジアムということになれば、それで具体的な検討をするわけですけども、これは、やはり市が全部やるのだったら、すぐに自分達で発注してやりますけれど、これは投資案件になりますので、やはり投資される方がどのくらい出てこられるかというのは、ポイントになりますので、いつまでにというのは、なかなか決めにくいという状況があります。これは静岡市にとって、あまり例がないくらいの大規模開発になりますので、そういう面では一年や二年で、その話が進むという問題ではないと思っています。

ただ、ダラダラしても、まさに何にもなりませんから、やってみようという方がおられれば、即時に実現できるよう、迅速に実現できるように進めていきたいと思っています。

◆朝日新聞

すいません、ちょっとしつこくて申し訳ないんですけど、だいたい金額的にはどれくらい、大規模になるということですけど、どれくらいの規模が今のところ、この中で、幅はあると思いますが、想定できるというふうに考えていらっしゃるんですか。

◆市長

これはわからないですね。何が一緒に入ってくるのか、スタジアム単体ではなく、おそらく想像ですけど、スタジアム単体で何かやろうということではなくて、ホテルと併設とか、あるいは商業施設併設という案でなってくるのではないかなと思いますので、それによって投資規模は相当変わってきます。

それから、スタジアム自身についても、どういう機能を持たせるかということですね。ひとつのアイデアですけれども、芝生が上にずっと上がって行って屋根になるというような案を作っておられる方も、すでに出てきていますので、そうするとものすごい金額になるわけですね。

ただ、そういう場合は、サッカースタジアムの弱点は天然芝のグラウンドで、そこに、あまりいろいろなことに使えないという状況がありますから、それを今のような上に上げるかどうかは別にして、天然芝じゃない状態でいつもスペースが使えることになれば、また全然違う採算といたしますか、使い方が出てきますので、しかし、金額はかさみます。

したがって、現時点ではどのようなものが出てくるかわからないので、金額はいくらだとかは言えない状況です。でも、単純に考えるとスタジアムは 300 億ではできないと思いますので、300 億円以上の投資にはなると思っております。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞と申します。同じ清水駅東口のまちづくりの関係で質問なんですけども、5月ぐらいでしたかね、「この土地利用の条件の調査をします」ってことを表明されて、その後ので伺いたいのは、その後の調査でわかった情報と「それまでにわかっていたんですけども、今回整理してお示したんですよ」っていう、その情報をちょっと分けて教えていただきたいんですけども、新しくその調査によってわかった情報っていうのは、どういった部分になるんでしょうか。

◆市長

新しくと言いますか、全て5月以降、新しくわかったということだと思います。今までは何も検討してませんでしたから。いやここにスタジアムができたらいいですよねという話だったわけですね。ですけどその時点で例えばこれで今の港湾法の規制、都市計画法の土地利用規制はどうなってんですかという整理もついていませんでしたのももちろんデータとしてはあるわけですよ、データとしてはあるわけですけどこれ整理された形になってなかったの、そういうその一つ一つ整理をしてきたということですから、全てが5月以降明確になったというものだと思います。

その中でも特にわかっていなかったのは何かというと土壤汚染の関係であるとかですね。あるいはその津波の浸水高さがどういう問題であるとか、それからタンク、これはENEOSさんに聞かないとわかりませんので、タンクがどこにあって、そして例えば古いタンクの基礎がどうなってるかとかですね。そういうことをお聞きしないと、タンクの撤去ができないという状況にもありますから、特に新しくわかったというところであると、このENEOSの土地の性状ですね。タンクの構造であるとか、土壤汚染の状況だとかその辺についての情報は新しいと思っています。

◆静岡新聞

すいません、資料全て読み込めてないんですけども、例えば土壤汚染でこんな化学物質が出ることが想定されるっていうような書き方をされてるんですが、これはその調査によってこういった化学物質が実際に検出されたっていうことなんですか。

◆市長

これはですね、おそらくENEOSさん、わかっておられると思いますので、ENEOSに聞いたところ、「だいたい、こんなところですよ」とおっしゃっているのですけれども、具体的にデータを出していただいたわけではないので、聞き取りという形になりますね。

◆静岡新聞

こういった物質があるってことを前提にした土壤汚染対策を検討された…

◆市長

そういうことですね。

◆静岡新聞

確認ですけど、高圧ガス保安法とかガス事業法で、このLNGタンクの半径300mについては、そういった誘客・集客施設のようなものはできないってことも、今回の調査で新しく確認されたってことでよろしかったですか。

◆市長

そうですね。300mは集客できないとはわかってはいましたが、こうやって絵に落として、ここが引っかけますよ、みたいなのを描いたのは初めてということになります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、先に時事通信さん、お願いいたします。

◆時事通信

時事通信です。今年を振り返ってのところで、危機管理体制の強化というお話があったんですけども、当初の市長就任直後の市の職員さんの姿勢と比べまして、現状、市の職員さん達のどういう姿勢を見て、意識や対応力が高まってきたというふうにお感じになっていらっしゃいますか。

◆市長

「初動全力」とか、「最悪の事態の想定」というのは、当然なんですけれども、例えば、タイムラインという、台風が来るような時は3日くらい前から検討を始めて、「いついつに、こんな災害が起きるだろうから、それに備えて今日はこれ、明日はこれ、当日はこれ」ということを決めるということをやっけていて、その時に最悪の事態を想定ですから、たぶんこの程度だろうと思うのではなくて、もうちょっと大きな状態が来た時にはどう対応するかということの意識付けもできています。

もうひとつは、「平時組織の有事組織化」というのはちょっと聞き慣れない言葉だと思いますけれども、市の職員を普段はみんな平時で仕事しているわけですね。

だから、その平時の仕事で、気持ちも平時モードなんですね。有事の時にはモードが変わらないといけないんですね。だから、この1秒を争うようなことで判断していかないといけないわけで、そうするモードを切り替えないと

いけないですね。それから、組織は平時の組織でできていますから、組み替えないといけないわけですね。有事の時は、関係課の連携関係を全部組み替えないといけないのですけれど、そういうことの意識が徹底してきています。とにかくその対応が早くなったというのが一番大きなところじゃないかな、対応が早くなったことと連携をしっかりとる、それから情報を取りにいく。どんどん取りにいくという姿勢が、全然変わってきたと思っています。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

すいません。また清水の話なんですけど、細かいことで申し訳ないんですが、港湾法と都市計画法、関連法については、変更はいつ頃を目途に変更するご予定で、かつ、これは市だけで変更できるものなのかどうか、ちょっとすいません、基本的なこと、わからないもんですから、どういう手続きでやるのかだけ、ちょっと細かくてすいませんが、教えていただけますか。

◆市長

はい。いつやるかはちょっとまだ決めてないのですけれども、港湾法については、港湾管理者がやりますので、港湾管理者は静岡県ですので、県の港湾審議会で議論されることとなります。そして、都市計画については、都市計画審議会ですので、静岡市の都市計画審議会で議論するという形となります。ちょっと時期は、まだ未定です。

◆司会

毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい。毎日新聞です。私もスタジアムに関してなんですけれども、先ほどのお話の中でも、今、IAIスタジアムに関して、3月までに費用が出てきて、それで市として判断しなくてはならない。まず、ひとつはその判断するのは、どのくらいでできるのか。

一方で、今日「清水の方でスタジアムも作れますよ」というのを、事実上募集開始ってということで、関心ある人は計画立てて、計画立てるにはそれなりのいろいろコストとかもかかると思うんですけども、その末に静岡市としては、「IAIスタジアムを使っていくことにします」とって、清水駅の方では、やっば

スタジアムはとなると、「もう無しですね」というような、言い方、あれですけど、はしご外されるみたいなことも想定されるってことなんですかね。

◆市長

そうですね。場合によってはありえると思いますけれども、イチ・ゼロではないと思っていますので、イチ・ゼロではないというのは、今のスタジアムをいつまで使うのかということもありますよね。だから、直ちにやめるわけじゃなくて、例えば、サッカースタジアムじゃなくて、スタジアムを作り始めると、かなりの年数がかかりますので、そうすると例えば6年かかりますとか、8年かかります、と言った時に8年間、I A Iスタジアムを使うためにはどうしたらいいのかという検討も必要で、ですから並列して使うということもありますし、それから新しいスタジアムが東口にできたら、今のI A Iスタジアムは全く使わないかということとそうでもないわけですよ。並列して使うという、騙し騙し使っていくということもありますので、市民利用を中心にですね。

ですから、今のご質問に直接お答えしていないかもしれませんが、「いや、やはり、今、スタジアムを全面的にやっています」ということは、ゼロではないですけど、可能性としてはかなり低いとは思っています。

◆毎日新聞

はい、ありがとうございます。

◆司会

静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。よろしくお願ひします。スタジアムについてお伺ひしたいんですけど、まだ、この質問するにはちょっと早いつていうのは承知しているんですけども、投資案件ということで、現時点で興味を示しているような民間企業さんだったり、市長のお耳に入っていたりしますでしょうか。

◆市長

いくつか関心ある方はおられますが、実際にですね。そして、先ほど言ったような、すでに絵を描いておられる方も出てきていますので、そういう面ではこれから活発になってくるのかなと思います。やはりこうやって条件を示さないと、絵の描きようがない。単なる絵を描いてみました、になってしまうので、今、求めているのは単なる絵ではなくて、本当に投資ができる計画になっている



かどうかということの確認が必要ですので、そういう面では、これから今、すでに出ている方々も何社かいますので、そこからさらに進化していくのではないかなと期待しています。

◆静岡第一テレビ

すいません。あともう一問させてください。今年の漢字、今日、「創る」ということで、いろいろ、市長、就任されたからいろいろな取り組みをされてきたと思うんですけども、就任からここまで自己採点をしていただけますでしょうか。

◆市長

自己採点は、人が、自分がやるものではないかなと思っていますので、「何点です」と言うほど、私、自己評価できませんので、皆様の評価にお任せします。

◆静岡第一テレビ

それじゃすいません。所感だけでもよろしいですか。すいません。

◆市長

まあまあでしょうかね。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。スタジアムのJR清水駅東口とマラソンについて、両方伺います。まず、今年の4月に、スタジアムと清水庁舎を複合化する案というのが報道であって、市長はそれを否定されてましたけども、今回のこの報告を見ると、法令のところで、「オフィス（公共）が○」になってますけど、清水庁舎の全部だったり、一部だったりを複合化するということも視野に入ってるんでしょうか。

◆市長

それは、市としては全然考えていないですね、結果として、そういう絵を描いてこられる方がある可能性があるし、それから官公庁といいますか、そういうものは市の施設だけではありませんので、清水に国の施設もいっぱいありますから、そういった方々が、「そこの方がよい」という可能性もあるので、そういう検討の幅を広げるために、その官公庁についても立地は可能だということを書いているという状況です。

◆中日新聞

そうすると、もしそういう絵を描かれて、例えば国の施設だったり、市の施設を入れるという案を描いた業者の計画が採用された場合は、市としては、どうですかね。

◆市長

だいぶ先の話ですので、考えてないですね。その時点でまた考えたいと思いますけれども、床がいくらなのかとか、そのあたりがやはり大事な、床というか平米単価がいくらとか、そういうことまでやらないと移転がどうのこうのという話はできませんので、はい。だいぶ先になるかなと思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。あと静岡マラソンなんですけど、6月議会の委員会で、協賛金を2,600万円増額して、合計1.2億円という見込みを提示してましたけども、協賛金って、どのくらい今、集まってるんでしょうか。

◆市長

わかります？ちょっと私は、ちょっと確認してみます。まだ公表できる段階になってないのではないかなと思いますので、ちょっと聞いてみますが、私はちょっとすいません。確認していません。

◆司会

すいません。まだちょっとお答えできるところまではいってないということで、すいません。

◆中日新聞

ちょっと、もう一問お聞きします。静岡マラソンで、市長は6月に開催まで一年ない中で、開催を決定されまして、個人的には根拠と共感を大切にする市長としてはやや唐突な感じも受けました。今回フルマラソンの人数が集まったというニュースは良かったと思うんですけど、5,000円値上げした割に、制限時間が短いだったり、ボランティアが今も集まってないということで、市としても1億円という少くない額を負担する決定をしたわけで、今回は見送って次の大会以降、万全な体制で開催するという案もあったと思うんですけど、そのあたりは振り返って、ご自身の判断をどう考えてますか。

◆市長

静岡マラソンですね。やはり要望する声が非常に多かったというのがひとつですね。それから、根拠と共感という面で言うと、経済効果ですね。経済効果もしっかり見たということと、採算が取れるかどうかというところですね。それもしっかり見た上で、判断しておりますので、そんなに拙速に判断したわけではないと思っています。長く時間をかけたら問題が解決するわけではないと思いますので、例えば、5時間半を6時間、あるいは6時間半にするについても、これはちょっとさすがに時間の制約があったので、すぐには行きませんけれども、これから一年かけてやる、だから、そのためにも「今は5時間半でとりあえず行きましょう」ということにしたということですね。はい。ですから、これから拙速にと言いますか、時間をかけて判断したらよい結果が出るわけではありませんから、6月の時点での判断というのは、間違っていないと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございました。

◆司会

それでは、その他発表案件以外のご質問もあれば。では、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

すいません。読売新聞と申します。昨日、静岡大学が以前より議論されています1大学2校案を静岡大の成案とすると発表されました。議論が平行線で着地が見えない状態が続いているんですけども、静岡市としての姿勢や、これまでの動きに対する受け止め等お願いいたします。

◆市長

これまでも申し上げてきたとおりで、法人の経営形態については、大学で決めることだと思っていますので、当事者による議論を見守りたいと思っています。ただ地域にとって、教育あるいは研究、その両面でも大学の魅力向上というのは非常に大事ですので、とにかく早く結果を出していただいて、魅力を向上していただければと思います。ちょっとだけ、書くところです、ここにA案・B案があって、1法人2大学と1法人1大学、静岡キャンパス、浜松になるわけですよ。それで、今やりたいと言っているのは、医工、医と工と情報の連携ですから、これは“○”なわけですよ。どうしても進めないといけないので、こう

やっていった方がよいと思うのです。問題は、これをここに収めるのかですね。こちらに収めるかの話なので、これを市がどちらがよいなんていう話ではできませんよね。法人の経営形態の問題ですから、それは言ったら、それはおかしい。越権ですよ、明らかに。もうひとつ大事なポイントは、これは前から申し上げた「部分最適でしょ」と言っているんですね。「これを、ここには収めるのはよいですけど、これどうするんですか、これどうするんですか、という議論がないとまずいのではないですか」というのは言っていますけれど、これは外野の話で、「私はそう思いますけど」と言っているだけで、だから、どちらがよいという話を市がしたら、それは変じゃないですかと思っています。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。先にNHKさん、お願いいたします。

◆NHK

はい。今の件に関連しています。部分最適と全体最適というふうな言葉がありまして、あと静岡市としては現在、難波さんはそれに何て言うかな、再編の形態には介入すべきでないって話があったんですが、以前は現在の合意書が締結された段階では、静岡市議会、さらに、その当時の静岡市としては、この分割再編案というのが理解しかねるというふうな話があった時期がありました。こちらとしては、この質問の趣旨なんですが、「全体最適というふうなことを考えた場合に、経営の形までは口は出せませんが、こういう形にしなければその魅力というのは伝わらないんじゃないでしょうか」というふうなことは、たぶん、何か私見でもあると思いますので、そのあたりは、昨日、ある程度、静岡大学は明らかにしたところがあり、一つの総合大学でないと生き残れない的な話もあったりしました。そういった場合に、全体最適ということ考えた場合に、市長はどう考えますか。

◆市長

なんとも言い難いですね。今、こう書きましたけれど、本当に、さらに言うと、ここに他大学、それから他の研究機関ですよ。研究機関、例えば、JAMSTECがあるわけですよ。これとの連携もしていかないといけないですよ。だから、「これがよいですか」という話と、「こういうところと、じゃあ、これはどういう連携をしていくんですか」という話も、これからすごく大事なわけですよ。また、私達が静岡市として思うのは、今、例えば、ブルー・トランスフォーメーション、BXで、海洋の開発をどんどんやってほしいというふうに思っていますので、JAMSTECと静岡大学は連携して欲しいと思っている

んです。東海大学も連携して欲しいと思っているわけですが、では、J A M S T E C、東海大学、静岡大学の連携をどうするかということも考えていけないといけない。だから、とにかく、我々としてはなんとも言いがたいです。わかりません。早く決めてください、と。

いつまでもこうやっていて、結局、連携が進まないというのは、一番まずいですから、とにかく早く決めてください、と。その上で、もっと他の大学だとか、研究機関との連携した形で、そして、それには、産学官の連携が大事ですから、行政としても、一緒にやりましょうということで、関わっていきますというところです。

ただし、元の大学の形態だけは、なんとも我々は言いようがないといえますか、どちらがよいかわからないですね。外野ではわからないと思います。

#### ◆NHK

はい、ありがとうございました。

#### ◆司会

その他いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

#### ◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。リニア問題について伺います。県議会の12月定例会で、自民県議から知事が考えるリニア問題の解決策について問われた時に、川勝知事が「現行ルートを前提に開通できる所から開通させることが営業実績となる」といったような部分開通を示唆するような発言をされました。この部分開通が解決策となるといったことについては、難波市長はどのように捉えますでしょうか。

#### ◆市長

はい。リニアの全線開通というよりも、早期にリニアが実現するためには、そのほうがよい、ということでおっしゃったのだと思いますけれども、私、前から申し上げているんですけれども、あの事業は民間事業なんですね。国家的事業ですけれども、JR東海という民間企業が実施している事業なんですね。事業者がどういうふうに関業していくかなんてことは、事業者が決める話であって、企業の経営に関係ないものが「部分開業がよいです」とか、そんなことを言う話ではないと思います。自分の県であれば、まだいいですよ。静岡県に影響するから、早く通してくれ、と。例えば、山梨県がそう言うのだったら、それはわかりますけれども、そんな関係ないわけですよ、静岡県には。「それ、なんで言うんですか」

ということは、私はちょっとわからないですね。

さらに言うと、県の常任委員会で、「それが県の公式見解です」と、事務方が言われましたけれど、これも、さらにわからないですね。川勝知事がおっしゃっているのなら、まだそれは、政治家川勝知事がおっしゃっているのだから、それはそれでよいと思いますけれど、いくら県議会でそう言ったからといって、それが「県の公式見解です」と言うと、ちょっと、これ、わからないと言いますか、ちょっと理解できないですね、というのが感想です。

◆静岡朝日テレビ

解決策について問われた時に、部分開業を示唆する様な発言をされたと思うのですが、難波市長は部分開業というのは、解決策の答えになっているとは思いますが。

◆市長

よそのことに、企業の経営に口を出すつもりは全くありませんけれど、常識で考えて部分開業で採算が取れるわけがないと、私は思っていますので、そんなことをすると、ものすごい金額の赤字が出るわけですから、企業経営者ではありませんから申し上げますが、ありえない案だと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。もう一点だけ伺いたいんですけれども、この問題、このリニア問題を解決するために、県の専門部会ですとか、国の有識者会議ですとか、市の協議会というのがあると思うんですけれども、その問題を解決するためにそういった会議を開いているのに、この部分開通というのが解決策として出されたことについてはどう思いますか。

◆市長

理解できないですね。市の協議会もそうですし、県の専門部会も同じですけれど、これは環境影響評価をやるためにやっているのものであって、部分開業がよいのか、全線開業がよいのかという議論をする場ではないわけですよ。したがって、少なくとも静岡市としては、そういう問題に入るつもりはありませんし、県としてそういう問題について何か言われるというのは、非常に変ではないかなと思っていますけど。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
それではですね、はい。

◆市長

はい。ちょっと一点だけですね、追加でお話をさせていただきたいのですが、これは市長としてではなくて、前の県の副知事の時のことですので、お話をしたいと思えますけれども、ここのところ、リニア問題で県の専門部会の森下部会長が、JR東海に寄附講座を提案したという話があって、それについて県の関与はどうだったのですか、というような質問が、県議会であったと思いますが、それについて、知っているのは私と織部さんだけです。ですから、私が、今日は県の副知事時代を振り返って、一言だけ、この問題についてお話をしておきたいと思えます。時期は、実は覚えていないのですけれども、県の専門部会の森下部会長が、講座を設置したいということで、私のところに来られました。織部さんが、今は県から市に来ていただいていますけれども、織部さんが同席していました。そこは鮮明に覚えています。そして、なぜ鮮明に覚えているかということ、その後のこともあるからなのですけれども、森下さんが何とおっしゃったかということ、実は寄附講座とおっしゃったかは覚えていないのです。講座を作りたいということ、森下さんから提案がありました。県としてどう思うか、と言われたので答えたのですけれども、それは、森下部会長は、「南アルプスの学術研究が足りてないですね」「だから、もっと学術研究を強化すべきじゃないですか」というお話をされました。それで、私はその時に「その通りですね」「やはり、今まで南アルプスの自然環境の問題について、県として本気で取り組んでいないところがあるので、それは取り組むべきですよ」と申し上げました。ただですね、その時に、すでに県は3つのことをやる予定にしていました。ひとつは、南アルプス学術フォーラム、今は学会と名前に変わったのかもしれない、ちょっと、今、離れていてわからないのですが、学術フォーラムを作るということ、それから財団を作るということですね。今、南アルプス自然、何財団でしたかね。財団を作るということ、もうひとつ、基金を作るということですね。この3つをその時点でやる方向を決めていました。

したがって、森下部会長からその話があったのですけれども、県はすでにいろいろな方々を巻き込んだ形で、南アルプスの自然、南アルプスについての学術研究をやる組織を作ろうとしているので、「森下部会長がおっしゃることはもっともだけれど、静岡大学にそういう講座を作るということについて、我々として協力する考えはありません」と、はっきり申し上げました。それで、以上、

終わりです。

その後、森下さんと1回もこの話はしたことがありません。なぜかという、「以上、終わり」になっているからですね。その講座について、県は協力するつもりはありません、と。その場で、ありませんというのは、協力するつもりがないのではなくて、講座を作られるのはよいのだけれど、作られたら、こちらの学術フォーラムと、県がもっと広く作ろうとしている学術フォーラムと一緒にやっていただければよいので、したがって、県としては、「森下部会長がおっしゃった講座に協力する予定はありません」と、はっきりお答えをいたしました。その点だけは、今、県を離れていますけれど、たまたまですけれど、私と織部さんしか知らない、その場で同席していたのは、私と織部さんだけです。そういう面では県にその時のことを知っている人は誰もいないですから、私が、この場ではっきりお答えをしておいた方がよいかということで、お話をいたしました。質問はあんまり、ひとつでもあれば、はい。

#### ◆読売新聞

すいません。私、常任委員会のやりとり聞いてたんですけども、県の方は何て答えたかっていうと、少なくとも前向きな返答はしなかった、というふうに事務方は説明したんですけど、そういうことですかね。つまり、そういうこと…

#### ◆市長

おそらく、今、県の方は、それは、また聞きで聞いていると思います、知らない、その場にいなかったですから。ですから、その場にいたのは、私と織部さんだけで、ひょっとすると、もう一人いたかもしれませんが、それは、もうたぶん退職している人です。したがって、今は県の現役で残っている人で、その場面を記憶している人はいないですから。したがって、その話はたぶん伝聞で聞いて、そういうふうにおっしゃっているんだろうと思います。

#### ◆司会

はい、静岡新聞さん、お願いいたします。

#### ◆静岡新聞

その関連でごめんなさい。森下さんから、JRから寄付を募るみたいな話はなかったってことですか。

#### ◆市長

それは記憶がないですね。講座を作りたいというお話はありました。それで、



寄附講座という話をされたかどうか、ちょっと記憶にないです。講座を作りたいとおっしゃるので、「それは結構だけど、それには協力できませんよ」という、市として、ごめんなさい、「県としてそれを全面的に応援するという形はできませんよ」というお話をしたということです。

◆静岡新聞

そのときに、難波さんの頭の中に「県の専門部会での議論の客観性とか平等性が揺らぐから」みたいな、そういった懸念ってのは、特に浮かばなかったですか。

◆市長

そういうのは全然考えていないですね。すでに学術フォーラム、学会を作るといって進んでいましたので、それと完全にぶつかりはしないですけど、ダブる話になりますから、「いや、これは、もうこちらで、県としてはこちらでやる方向を決めていますので、作られるのは結構ですけど、それに全面協力という話はありませんよ」といって、はっきり申し上げました。

◆静岡新聞

何年の話っていうのも…

◆市長

覚えていないですね。

◆静岡新聞

2020年とか21年とか…

◆市長

織部さんは覚えているかもしれないけど、私は記憶にないです。すみません。

◆司会

はい、よろしいでしょうか。それではですね、本日の定例記者会見を、はい。

◆毎日新聞

漢字さつき掲げられた時、ちょっと視線向こうの方だったんで、こっちもちょっと撮らせてください。

◆市長

はい、これでいいですか。はい。ありがとうございました。

◆司会

はい、それでは定例記者会見を終了させていただきます。  
ありがとうございました。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆司会

次回は来年の1月12日の予定となっております。よろしくお願いいたします。